

第 62 回日本薄片研磨片技術討論会開催報告

東北大学理学研究科地学専攻技術室
伊藤嘉紀・阿部道彰

日本薄片研磨片技術研究会第 62 回技術討論会（以下、技術討論会）は、東北大学理学研究科において、一般社団法人日本粘土学会及び日本学術振興会鉱物新活用第 111 委員会の共催のもと、2019 年（令和元年）10 月 2 日～4 日の 3 日間の日程で開催した。参加人数は 30 名であった。新しい年号「令和」になって初めての技術討論会を東北大学で開催できたことは非常に光栄なことと思っている。

開催初日は、会長の挨拶にはじまり、記念講演、記念撮影、午後からは総会、ポスター発表、懇親会を行った。2 日目は口頭発表、3 日目は巡検を行った。

初日は、最初の会長の挨拶で会場がピリリと締まった空気になり、会員一人ひとりの技術討論会への思いを実感した（写真 1）。続く記念講演は、東北大学東北アジア研究センターの宮本毅先生による「陥没カルデラの形成過程 - 鬼首カルデラ・十和田火山中湖カルデラを例として -」と題した講演であった。非常に分かりやすく、参加者にとっては有意義な講演であったと思っている。初日の最後は、技術討論会の初めての試みであるポスター発表を行った（写真 2）。発表件数は 6 件であった（表 1）。コアタイムを 45 分としたが、発表件数から考えるとコアタイムが若干長かった気がする。今後は、発表件数に応じた時間配分、進行等を行う必要がある。今回の失敗を次回に繋げればと思っている。

夕方からは、懇親会を行い一年に一度会える仲間と楽しいひと時を過ごしてもらった。



写真 1 大和田会長の挨拶。



写真 2 ポスター発表。

表 1 ポスター発表のタイトル及び発表者。

海底マンガクラスト・団塊の岩石学的記載における課題と展望	臼井朗, 川村美智子, 長岡杏奈, 大和田朗
磁鉄鉱微粒子を含む水酸化鉱物の研磨	森本和也, 平林恵理, 鈴木正哉, 大和田朗
乾式研磨法による歯の薄片作製	平林恵理, 大和田朗
メノー: 矢じり作製へのアプローチ	山田裕久, 中村真佐樹, 大和田朗, 平林 恵理, 菊池芳文, 鈴木正哉
珪藻土における細孔と吸着特性について	鈴木正哉, 森本和也, 大和田朗, 山田裕久
研磨治具および SEM ホルダーの作製	伊藤嘉紀, 阿部道彰, 大山次男

2 日目は 5 件の口頭発表を行った（表 2）。イギリス・ドイツの薄片技術の視察の報告や軽石、生物（キクメイシモドキ）や恐竜化石の薄片作製方法の発表があり、中でも北海道大学の中村さんの恐竜化石に関する発表（写真 3）は、内容も大変興味深く、また時折ユーモアを交えながらの発表は聞く側にとっても大変分かりやすく非常に参考になった。

表 2 口頭発表のタイトル及び発表者。

イギリス、ドイツにおける薄片技術の実地視察	高谷真樹
軽石（小型）研磨薄片製作のご紹介	野村秀彦
キクメイシモドキ（ <i>Oulastrea Crispata</i> ）の薄片作製への取り組み	田尻理恵
カムイサウルス・ジャボニクス（むかわ竜）化石の薄片作製	中村晃輔, 野村秀彦
超高温高压実験試料の研磨片の作製	伊藤嘉紀, 阿部道彰, 大山次男



写真 3 中村晃輔さんの発表。

3日目の巡検は生憎の天気だったが、16名が参加し、記念講演者である宮本先生の案内で仙台近郊の奥松島・松島・七ヶ浜に堆積する火山噴出物の見学を行った(写真4)。雨の中、熱心に説明する先生とそれを熱心に聞き入る参加者の光景が印象的であった。



写真4 宮本先生の巡検案内。

こうして無事3日間の日程を何事もなく予定通り終了することが出来た。開催にあたり、暖かい叱責、心温まる助言を頂いた会長、実行委員会委員長の野村さんはじめ実行委員会の皆様、陰でささえて下さった平林さんに感謝申し上げます。